

令和6年7月26日

市政記者クラブ様

教育委員会教育支援部義務教育課
担当 首席指導主事
杉山 美津夫
電話 972-3270
(愛知県と同時発表)

令和6年度全国学力・学習状況調査、名古屋市の結果について

令和6年4月18日（木）に、小学校6年生と中学校3年生を対象に実施された全国学力・学習状況調査の国による公表結果が名古屋市に提供されましたので、本市の結果の概要についてお知らせします。

記

1 本市の実施状況

	学校数（校）		児童・生徒数（人）	
	名古屋市	全国	名古屋市	全国
小学校	260	18,468	17,378	947,579
中学校	110	9,268	15,279	875,952

令和6年4月18日に実施した公立の学校について集計

2 本市の教科に関する調査の結果

校種	調査区分 【問題数】	平均正答率（％） 平均正答数（問）		標準偏差	
		名古屋市	全国	名古屋市	全国
小学校	国語 【14問】	66 9.2	67.7 9.5	3.2	3.1
	算数 【16問】	65 10.5	63.4 10.1	4.0	3.9
中学校	国語 【15問】	57 8.6	58.1 8.7	3.4	3.4
	数学 【16問】	56 9.0	52.5 8.4	4.3	4.1

※ 全国平均正答率は小数第1位、都道府県・政令指定都市平均正答率は整数値で公表されている。

※ 名古屋市としては、本調査の実施要領に則り、学校別の平均正答率等を一覧にした公表は行わない。

3 教科に関する調査から見られる本市の傾向

- ・ 小中学校ともに、いずれの教科も全国と比較して無回答率が高い。
- ・ 小学校の結果は、全国と比較して国語がやや低く、算数はやや高い数値となった。特に、国語の「漢字を文の中で正しく使う」は正答率が低い。算数の「数量の関係を□を用いた式に表す」は正答率が高い。
- ・ 中学校の結果は、全国と比較して国語がやや低く、数学は高い数値となった。国語は「話し合いの話題や発言を踏まえ、自分の考えを書く」は全国と比較して正答率が低い。数学の「問題場面における考察の対象を明確に捉え、正の数と負の数の加法の計算ができる」は正答率が高い。

4 児童生徒質問紙調査の結果

(1) よいところが見られる項目

	項目内容	名古屋市(%)	全国(%)
小学校	学校に行くのは楽しい	86.0	84.8
	分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができる	81.7	80.7
	自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる	88.6	88.2
	授業で学んだことを、次の学習や実生活に結び付けて考えたり、生かしたりすることができる	83.9	83.7
中学校	学校に行くのは楽しい	86.4	83.8
	分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができる	81.1	78.6
	学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができる	86.9	86.1
	課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができる	80.4	80.3

(2) 伸ばしていきたい項目

	項目内容	名古屋市(%)	全国(%)
小学校	各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動をしている	79.5	79.6
	ICTを活用して、自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる	78.8	79.2
中学校	各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動をしている	74.5	75.4
	ICT活用では、自分のペースで理解しながら学習を進めることができる	73.3	80.2

5 児童生徒質問紙調査の結果から見られる本市の傾向

- ・ 小中学校ともに「学校に行くのは楽しい」「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができる」と回答している児童生徒の割合が高い。
- ・ 小学校では、「自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる」と回答している割合が特に高い。
- ・ 中学校では、「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができる」と回答している割合が特に高い。
- ・ 小中学校ともに「各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動をしている」と回答している児童生徒の割合は、全国と同程度である。
- ・ 小学校の「ICTを活用して、自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる」、中学校の「ICT活用では、自分のペースで理解しながら学習を進めることができる」と回答している児童生徒の割合は、全国と比較して低い。

6 今後の対応

- 教育委員会は「学力向上プロジェクトチーム」を立ち上げ、本市の結果を論理的に分析し、各学校の学習課題改善に向けた取組みを支援する。
- 教育委員会は、各学校の授業・指導方法の具体的な改善策を把握し、助言を行う。
- 各学校は、自校の結果を分析し、授業・指導方法の改善に向けて取り組むとともに、結果及び改善策を保護者に周知する。